

2022 年度 想定予定 当日に状況により内容が変更される場合があります。

時間	項目
0 分	ライフセーバー（以下 L S）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 傷病者 A；監視本部前の波打ち際から自力歩行	監視本部前の波打ち際から、傷病者 A（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿（右ふくらはぎ）に急激な痛みを感じ、更に、痛みにより興奮したところ鼻出血が止まらなくなった状態で監視本部まで歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 【想定のおねらい】右下腿には触手が残っていないことから、どのクラゲ（刺胞動物）に刺されたのか不明。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけ含め傷病者 A が安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（お湯を使って温める。何が何でも海水をかける行為は NG）。④鼻出血に対して適切な手当ができたか。⑤感染防止対策は十分であったか。
想定開始後 傷病者 B；監視本部前の波打ち際で意識不明	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から 40m 程度離れた波打ち際に溺れた人（傷病者 B）が引き上げられたようだと言われ通報を受ける。通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ)）。 傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部にきたが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者 B（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル 300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3 回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち 1 名が、波打ち際 20m 程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと言われ、ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：LS 接触時、呼吸、脈、意識なしの状態から CPA と判断、左記状態以外は見たまま、外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。） 訓練用 A E D を装着した場合は、解析するもショックの必要なし。ライフセーバーが CPR 実施後 1 分で胃内容物逆流（食べ物含む）。胃内容物逆流 30 秒後に清明ではないものの意識回復（レベル 30）、呼吸あり、橈骨動脈触れない。総頸動脈触れる。その後、「もう大丈夫だから…」と言って救急搬送を拒否する。直前まで意識レベル 300 であり、大量の海水を飲んでいると想定される。人定は傷病者本人に問いかけるも「もう大丈夫だから…」としか回答しない。ただし、LS の適切かつ十分な説明により救急搬送承諾（救急隊到着前）。LS が救急搬送の必要性を適切に説明できない場合であっても、救急隊到着後に「救急隊の判断としては病院受診が妥当」と救急隊により説明し承諾。 関係者の条件：LS 接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS 接触後 30 秒間は傷病者に『大丈夫？ どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに 300m 離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着 1 分後まで戻ってこなくなる。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって 090-7000-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20 分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119 番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のおねらい】溺水により当初は意識レベル 300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPA の判断、③救急要請、④CPR の実施、⑤AED の扱いが適切かつ迅速であったか、⑥CPR 中断の判断、⑦救急搬送拒否の対応の各段階で適切な対応ができていないか。搬送拒否の傷病者に対しては、救急搬送が必要な理由（肺炎、呼吸悪化、湿性溺水による肺水腫や感染の恐れなど、病院受診の必要性）を適切かつ十分に説明できているか。また、⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視 [重要]。
想定開始	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 9 分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及び J L A 側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。